

006 聖徳太子ゆかりの斑鳩をゆく

09:00



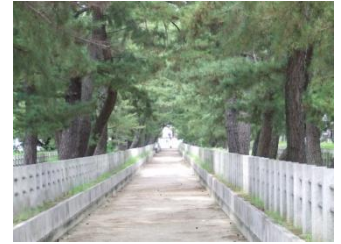
ホテル発9:00のバスに乗りいざ出発

JR森之宮駅から環状線外回りで天王寺まで行き、ここで大和路線に乗り換え奈良・加茂(かも)方面の快速に乗車。

天王寺⇒久宝寺(きゅうほうじ)⇒王寺(おうじ)⇒法隆寺(ほうりゅうじ) 約25分で到着
偶然なのか? 停車駅すべてに“寺”の文字が! 何かご利益があるような予感!!

法隆寺駅から約10分程で法隆寺東の交差点に到着、ここを左折するとすぐ右手前方に法隆寺の駐車場が見えて来ます。

この松並木の道を進めば法隆寺の正面玄関である、南大門(なんだいもん)が見えてきます。
※こんな感じです→



← 南大門をくぐれば法隆寺様式で整然と並ぶ建築物が視界に入ってきて、一挙に興奮モードに。



10:00



☆法隆寺 拝観料(1,000円)

皆さんご存知の通り聖徳太子が建立された日本でも知名度抜群の寺院
平成5年(1993年)に世界遺産に登録される。

国宝134点、重要文化財2307点の数多くの宝物を所有している。

全部を説明すると大変な為、ここでは私が是非拝観していただきたい数点をご紹介します。

西院伽藍(さいいんがらん)

○ 金堂(こんどう)内本尊(ほんぞん)

☆ 国宝 金銅釈迦三尊像(こんどうしゃかさんぞんぞう)
威風堂々とした金銅の中に一際優雅さを誇っている。

○ 大宝蔵院(だいほうぞういん)内

☆ 国宝 玉虫厨子(たまむしのずし)

推古天皇御物

捨身飼虎(しゃしんしこ)

釈迦前生の薩埵埵太子(さつとうばたいし)が飢えた母子の虎に我が身を与える様子を
描いた絵図。

施身間傷(せしんもんげ)

釈迦の前生において波羅門(ばらもん)となり修行している時、羅刹(らせつ)が現れ
「諸行無常是生滅法(しよぎょうむじょうぜしよめつぼう)」を説き、残りを聞く代償で
我が身を羅刹に与えることを約し、それを岩壁に書き留め投身した。羅刹は帝釈天に
姿を戻し波羅門の身を受止めた。未来に仏となった時に我等を救いなさいと諭した絵図。
どちらも聖徳太子の慈悲深い、仏教への思いがよくわかるなんとも言えない絵図である。

○ 百済観音堂

☆ 国宝 百済観音像(くだらかんのぞう)

やや薄暗い観音堂ではあるが中央に位置しているお姿は優美で慈悲に満ち溢れ、
その場所だけが別空間になっているような感じさえる。





西院伽藍を取り囲む回廊の格子も日本人ならではの細やかな細工がしていて、寺院全体のコントラストのすばらしさをより強調しているように感じられる。

西院伽藍を出てすぐに鏡池があり
その傍には、あの正岡子規の有名な石碑が
「柿食えば鐘が鳴るなり法隆寺」



石碑を見て一息入れてから夢殿(ゆめどの)のある
東院伽藍(とういんがらん)へ



東院伽藍(とういんがらん)

- 夢殿(ゆめどの)内
- ☆ 国宝 救世観音像(くせかんのんぞう)
聖徳太子等身大と言われている
この秘仏は年間2回の特別開扉の期間しか拝めませんのでご注

意！

そして…次に夢殿の裏手に位置している中宮寺に向かいませう。

- ☆ 中宮寺(ちゅうぐうじ) 拝観料 500円
この寺院は聖徳太子が母であり用明天皇(ようめいてんのう)の皇后(こうごう)である
“穴穂部間人皇女(あなほべのはしひとのひめみこ)”
の為に建立したものである。
別名、法興寺(ほうこうじ)、鵜尼寺(うにじ)とも呼ばれている。
また、法華寺(ほっけじ)、円照寺(えんしょうじ)とともに“大和の三門跡尼寺”とも呼ばれている。



ここで必ず観ていただきたいものは2点。まずは一つ目は、

- 中宮寺本堂内
- ☆ 国宝 菩薩半跏像(ぼさつはんかしぞう)
本堂中央に位置しており全身黒色のお姿に一瞬驚きもするがじつ〜と眺めていると、自分自身ではわからないほど不思議と心が落ち着いてくる。
そのお顔は「スフィンクス」、「モナリザ」と並んで世界の三つの微笑像と呼ばれている。
気品高く、清純な微笑みから感じられるものである。
私個人的には京都太秦(うずまさ) 広隆寺(こうりゅうじ)の弥勒菩薩半跏像(みろくぼさつはんかしぞう)とともに最も心が静まる仏像である。
- ☆ 国宝 天寿国曼荼羅繡帳(てんじゅこくまんだらしゅうちょう)レプリカ (本物は奈良国立博物館収蔵)
日本最古の刺繍で推古天皇(すいこてんのう)30年(622年)聖徳太子の妃(きさき) 橘大郎女(たちばなののおいらつめ)が太子薨去の後、太子往生の姿を偲ぶ為に天寿国の有様を刺繍させたもの。

この寺院は太子一族の暖かい家族愛を感じられる静かな寺院である。



中宮寺の門を右折し次ぎに向かうは、
“法輪寺(ほうりんじ)”です。
田舎の風情を楽しみながら
歩くこと約10分で道の正面に
目的地の法輪寺の三重塔が見えて来ます。



14:00



- ☆ 法輪寺(ほうりんじ) 拝観料 500円
別名、三井寺(みいでら)
推古天皇(すいこてんのう)30年(622年)聖徳太子の病氣平癒を願って息子の山背大兄王(やましろおおえのおう)と由義王(ゆぎおう)が建立した寺院
数多くの重要文化財を所有しています。

法輪寺の門を左折し次ぎに法起寺(ほうきじ)に向かう。
徒歩約10分で目的地に到着するがその道沿いには
地元の産物(いちじく、ぶどう等)
を販売する地元農家の販売所も点在している。

また秋にはコスモスが咲き乱れ疲れた身体を目力で癒してくれる。かも？
コスモ스에 囲まれた法起寺を撮りに来られる写真マニアも多く見受けられます。

- ☆ 法起寺(ほうきじ)
別名岡本寺(おかもとでら)、池後寺(いけじりでら)
推古天皇14年(606年)に聖徳太子が法華経を
講説された岡本宮を寺に改めたもの。 ※こちらが法起寺です→



- ☆ 国宝 三重塔
慶雲(けいうん)3年(706年)建立で現存する三重塔では日本最古である。

法隆寺の五重塔、法輪寺の三重塔、この法起寺の三重塔を比較して診るのも面白いかも。



15:00



どうでしたか？ 聖徳太子と過ごした一日は？
歩き疲れたでしょうか？ まだまだこの付近には見所箇所がいっぱい！

- ☆ 吉田寺(きちでんじ)
天智天皇(てんじてんのう)の妹で孝徳天皇(こうとくてんのう)の皇后(こうごう)
間人皇女(はしひとのひめみこ)の菩提を弔う為に建立。
また、本殿前で祈祷を受けると腰下の世話になることなく安らかに往生できると伝えられ
「ぼっくり寺」の名前で親しまれている。
- ☆ 信貴山朝護孫子寺(しぎさんちょうごそんしじ)
聖徳太子が物部守屋(もののべのもりや)との戦いに臨み毘沙門天(びしゃもんでん)
を祀ったことが由来。
朝護孫子寺の名は毘沙門天の靈験により醍醐天皇(だいごてんのう)の病氣を治して
賜ったものと伝えられる。
天正5年(1577年)には織田信長が松永久秀のこもる信貴山城を攻撃した際、多くの寺坊が焼失。



国宝では信貴山縁記絵巻が有名である。

また、聖徳太子が毘沙門天を感得した寅の年、寅の日、寅の刻であったことから境内各所に寅に関するものがあり、境内入口には福寅と称する日本一大きなはりこの寅が人気。阪神タイガースファンにも人気があるとかなないとか？

日程に余裕がある方はもう一日散策してみてもいいでしょうか？

そして最後に豆知識！

☆ **聖徳太子**

皇子名 厩戸豊聰耳皇子(うまやどのとよとみのみこと)等多数ある。
厩戸は母親が馬屋の前で産気づいたことが由来？
豊聰耳は一度に10人の話を聞くことができたことが由来？

父親は用明天皇(ようめいてんのう)

母親は穴穂部間人皇后(あなほべのはしひとのひめみこ)

敏達3年(574年)生まれ 推古30年(622年)2月22日薨去 享年 49歳

妃 膳菩岐岐美郎女(かしわでのほききみのいらつめ) 膳部傾子の女(むすめ)
刀自古郎女(とじこのいらつめ) 蘇我馬子の女(むすめ)
橘大郎女(たちばなのおおいらつめ) 尾治王の女(むすめ)

政治的事績 推古11年(603年) 冠位十二階の制定
推古12年(604年) 憲法十七条の制定
第一条 「和をもって貴しとなし」の言葉は有名
推古15年(607年) 小野妹子を遣隋大使とし派遣する

崇仏・排仏論争 崇仏派の蘇我馬子と排仏派の物部守屋とが用明2年(587年)に衣摺(きぬずり)東大阪市衣摺で戦いの火蓋を切った。その際14歳の聖徳太子が四天王像を彫り蘇我氏側の戦勝祈願した。その霊験で物部守屋を討伐することができた。そのお礼の為四天王寺を建立するきっかけとなった。

薨去の日は2月22日と言われているがその他諸説あり。

また母親の穴穂部間人皇后(あなほべのはしひとのひめみこ)は丁度1ヶ月前の1月22日に亡くなっており、妃(きさき)の膳菩岐岐美郎女(かしわでのほききひとのひめみこ)は前日の2月21日に亡くなった。この事柄もただの偶然なのか何か謎めいた感じがする。

☆ 斑鳩の名前の由来？

これに関しても諸説あり

- ① 当時16歳の聖徳太子が法隆寺建設予定地を探し求めていた時に、椎坂山で白髪の老人に顕化した竜田大明神に会い斑鳩(まだらぼと)に指示してもらった地に建立したことに由来する。
- ② この地域に鶺鴒(いかるが)と呼ばれていた家鳩の群れがいたことに由来する。

☆ 丹後地方で有名なブランド名「間人蟹」(たいざがに)で有名な間人の名前の由来？聖徳太子の母親穴穂部間人皇后が蘇我馬子と物部守屋との戦を避けるためにこの地に非難していた。戦が終息したため大和に帰ることになり「退座」することから皇后のお名前をそのまま付けることが恐れ多いため文字はそのまま呼び方を「たいざ」にしたことによる。